

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970800336		
法人名	社会福祉法人 明徳会		
事業所名	テンダーヒル御所わかば館 グループホーム きつとうっど		
所在地	奈良県御所市364-1		
自己評価作成日	平成30年3月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知面・身体面で一人では行えなくなってきた日常生活上の動作を出来る限り残存している身体能力、生活力、機能を活用していただけるよう介助方法を工夫し職員が補足的にケアしていく形で支援しています。また、環境面や利用者様同士の交流等の間接的なケアにも力を入れ、施設に入居しても家や地域で生活されてきた頃と同様に、馴染みの店・人との関わりを持ち、今までの生活の延長上にあるようなものとして考え援助をさせて頂いています。その為には、家族様の理解や協力が必要であり、関係を築く為にも、こまめに連絡し、報告、相談するよう努めています。さらに可能な限り、慣れた環境での生活を継続して頂けるよう、予め退居要件を特に設けず、看取りも含め、その都度、個々の入居者様に合わせた対応方法を家族様や医師、看護師らと相談し、連携をとりながら実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部の閑静な住宅地にある、開設後12年目の施設です。事業所内は明るく、居室には自由に利用者の馴染みの家具を持ち込まれ、その人らしい生活を支援されています。事業所近くの堤防沿いには桜並木が続き、春には桜花・新緑等の風景が利用者に季節の移ろいを感じさせてくれます。近隣の方々とも顔なじみで、散歩時に挨拶をかわしたり、地域のお祭りに参加する等、日頃から交流されています。全員が自治会に加入し、避難訓練にも近隣の方々に参加されて安心感のある、地域にとけこんだ事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議にて、ケアの内容等、方向性を確認した上で作成を行っている。直ぐに目に付くように掲示板に掲示し、会議等で啓発している。	全員の意見をもとにスタッフ会議で見直しされた、わかりやすい表現の理念を毎月の会議で再確認され、また、室内にも掲出して理念の共有と実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様との外出の際や通勤の際、近隣の方への挨拶を心掛けている。外出の際は、近隣の方と交流出来るよう配慮している。地域の方が、野菜や花を差し入れて下さることもある。	日常的な散歩で顔見知りの近所の方と話をしたり、近くの神社の行事に参加されたりしています。全員が自治会に加入し、地域にとけこんだ生活をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に来館して頂き、運動教室や認知症予防教室を開催している。市の集まりの場で認知症に関する講義を行い、認知症への理解や予防の啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様に参加して頂き、色々な意見を伺っている。地域の方々からの意見も参考にし、次の会議開催までに改善する形でサービスの向上に努めている。	会議は2ヶ月に1回開催されています。利用者家族、民生委員等の地域代表、市役所職員等が出席して活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が定期的に市に足を運んでおり、随時、情報交換が出来ている。	事業所が地域包括センターとしての機能を持つため、地域住民の相談の場となり、市役所・関係機関とは強く連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	通所介護や訪問介護との総合施設であるため、玄関に関して夜間は防犯上、施錠しているが、日中は解放しており、外出や面会は自由で、拘束は行わない取り組みを行っている。	日中、玄関は施錠されていません。玄関内に事務室があり、常に利用者に見配りができ、利用者の自由な暮らしを守るケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の会議内で話し合う機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践リーダー研修や認知症実践者講習を受講することで、権利擁護に関する制度の理解を行い、レポート等で事業所全体に周知出来る体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員を配置し、口頭や文章で十分な説明を行っている。何かあればいつでも相談して頂ける関係作りと、その機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、管理者や職員、地域の方々が苦情、悩み、要望等の意見交換を行う機会を設けている。また、面会時にご家族様から意見を頂く機会としている。	日頃から家族と職員は気軽に話をできる関係にあり、面会時に意見・要望を直接聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が運営に関する話し合いを行う時間を設けている。運営者とは法人全体の主任会議でその機会がある。	年2回管理者と職員との面談の場があり、意見交換をされています。また、月1回のスタッフ会議でも職員からの意見・要望等を聞く機会が設けられ、意見の反映に努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が自己評価を行い、個人面談を行っている。職員個々の一年の頑張りを把握し、賞与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対し、年1回、1週間程度の研修を開催している。GH内でも勉強会を開催したり、施設内外での研修に参加する機会を設け、知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以降、認知症介護実践者研修に参加し、他の事業所との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面接時、ご本人様、ご家族様に聞き取りを行っている。また、生活歴シートをお渡しし、記入して頂けるようお願いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面接時、ご家族様とじっくり話し、些細な内容でも意向を伺うようにしている。面接の前後でも気軽に相談して頂けるよう声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、入居後どのようにすれば安心して過ごして頂けるか等、ご本人様やご家族様と一緒に考え、検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来るところは出来るだけご本人の力で行って頂くよう声掛けを行っている。また、料理や植物の育て方等の生活の知恵を教えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居面接時や入居までの間に伺える範囲でご本人様との関係や、今までの生活についての話を聞かせていただき、入居後の生活の参考にさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で生活されてきた方に入居して頂く事で、病院や美容院、スーパー等、馴染みの場所への外出を継続する事が出来ている。	地域の利用者が多いので、昔からの馴染みの飲食店に行ったり、美容院に行くことを継続できるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居までのご本人様の性格や他者との関わり方等を可能な限り伺い、関係作りの参考にしている。個々の性格やペースに合わせ、時間の経過とともに自ら関係を築いて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居される場合は、必要に応じて、相談や支援を行っている。また、退居時にアルバムをお渡しし、GHでの生活を振り返っていたできるようにしている。何かあれば気軽に連絡いただけるよう、声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活面において、個々の意向を伺い、実現出来るように配慮している。	日常の関わりの中で、利用者から要望を聞いておられます。意思疎通の難しい利用者には表情・しぐさで理解したり、面会時に家族から意向を聞いて実現に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から得た生活歴等の情報は記録し、周知できるようにしている。面接時や、入居後の面会時等にご本人様のこれまでのご様子を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を日誌やカードデックスに記録する事で、状態の変化を把握しやすくしている。申し送り等で共通認識、周知出来るよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの場を設け、個々のケアについて検討している。必要時は職員間で話し合い、内容によってはご本人様やご家族様にも参加して頂き、方向性を検討している。	月1回、利用者ごとのケア検討会議を開き、きめ細かなケアと介護計画に繋げておられます。計画は、基本的に半年ごとの見直しですが、体調に合わせて随時変更され、よりよいケアに反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫したことを日々記録し、援助の祭には日誌や個人記録を活用している。会議にて見直しもやっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険内のサービスにとどまらず、希望があれば真摯に検討し、柔軟に対応出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用し、ご利用者様の楽しみを見つけ出せるよう幅広く取り組むことを意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から変更せず、意向に添った形での病院選びを行って頂いている。	以前からのかかりつけ医への通院は基本家族ですが、場合により職員が送迎することもあります。また、提携医へは職員が通院介助をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日々、健康管理を行って頂いている。協力医師や法人の看護職との協力体制も整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人で協力病院と入院先を確保している。医療相談員と情報交換や都度、相談を行いながら、入院が長期化しないよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医やご家族様とこまめに情報交換を行っている。最初から「出来ないこと」と想定せず、かかりつけ医、ご家族様と相談しながら出来ることを可能な限り検討し、実践出来るように取り組んでいる。	利用者の状態に応じて、終末期の対応について常に家族と話し合い、本人・家族の意向に沿った終末期を迎えられるように取り組んでおられます。看護師も常駐され、看取りの経験もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入に伴い、使用方法の勉強会等を行っている。また、緊急時の対応方法についても勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、入居者様参加型の避難訓練を実施。管理者が自治会に参加し、災害時、自力での避難が出来ない方もおられる為、職員だけの避難は難しい事を伝えている。	年2回昼夜の想定で火災・避難訓練が行われています。自治会に加入し、地域に根差した関係で、近所からも訓練に参加されています。また、事業所は地域の避難場所にもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重し、こまめに声掛けを行うようにしており、その仕方等にも配慮している。個人情報の扱いは規程にのっとり対応している。	利用者には「さん」付けを徹底し、利用者の尊重、誇りに配慮されています。リビング等での声掛けも丁寧で、トイレ誘導時もプライバシーに配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や、個々に合ったコミュニケーションから希望や意向、ご本人様の意志等、聞き取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間等、希望に出来るだけ応じて調整している。その日の体調や気分に応じて、安息時間を設けたり、散歩や買い物に出掛けたりと個人の希望にも出来るだけ添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を予約してご利用されていたり、訪問美容も2ヶ月に1度来て頂いている。衣類等の日用品も個々の好みや状態に合わせて購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を伺いながら、献立作りをしている。たこ焼きや鍋等、入居者様にも一緒に調理や盛りつけ等を行って頂く等の工夫をしている。	季節ごとのレクリエーションや誕生日等のイベント時には、利用者の要望が多いたこ焼き、お寿司、鍋物などの料理を提供し、職員も一緒に食することで食事を楽しむ支援をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好を把握しながら提供している。その方の状態に応じて、形態にも配慮し、自己にて楽しく摂取して頂けるよう工夫している。水分補給にも気をつけている。管理栄養士に栄養面の相談も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や必要に応じて、個々に対応している。義歯は毎晩、外して頂き、口腔内の異常確認を行うと共に、義歯の破損がないかも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに合わせた誘導の声掛けやパットの類の選定を心掛けている。出来る限りオムツやパットに頼る事がないよう、自立を促している。	排泄パターンや利用者のしぐさなどを把握して、プライバシーに配慮した適切なケアに努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行っている。必要に応じて水分補給や下剤にてコントロールを行っている。乳製品等、便通を良くする飲食物の提供も行い、排便を促す努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に添えるよう努力している。体調不良等で未入浴が続く際は、清拭等で清潔保持に努めている。季節のお風呂や入浴剤使用等の工夫もしている。	入浴日は設定せず、利用者の要望に応じて週2～3回の入浴に努めておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日中の過ごし方等を把握し、昼夜逆転や浅眠を招かない様、日中は活動的に過ごして頂き、生活リズムを整えて頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医と連携し薬の説明や作用、注意点の指示を都度受けている。また、処方内容が変更になった場合等は、看護師により副作用等の説明を受けている。服薬板に全職員が理解出来るよう記載されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員で決まって何かをするというだけでなく、個々の得意とされることや興味を持たれる事に力を入れて援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のフロアのスケジュールや体調等様子を確認しつつ、臨機応変に少人数ずつでも積極的に外出して頂けるよう配慮している。	事業所の南側には桜並木があり、格好の散歩コースになっています。また、近所のスーパーなどにも散歩がてらに職員の付き添いで買い物に出かけられています。利用者の体調が良ければ和歌山市方面等遠方にもドライブする等の支援もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1度、買い物の日を設けている。個々の能力に応じて、お小遣いは自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎに制限はなく、希望があれば使用して頂いている。希望時は手紙や年賀状等書いて頂き、郵便物の投函も代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダや畑で花や野菜を育てている。ベランダに入居者様の目線に合わせた棚を作成し、ご家族様や近所の方から頂いた花や野菜を植えたり、フロアに絵を飾るなどし、気持ち良く過ごして頂けるよう工夫をしている。	広く明るいリビングからは桜並木が見え、季節の流れを感じられます。ミニ菜園では季節ごとの野菜を育てたり、ベランダには花を植えて五感を刺激しながら楽しく過ごせる工夫がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでも思い思いに寛いで頂けるよう、環境作りに配慮している。廊下に配置したソファや和室、相談室等、落ち着ける場所として使用して頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ベッド等、出来る限り自宅で使用していた馴染みのある家具を持参して頂いている。都度、ご本人様やご家族様と相談しつつ、身体状況に配慮した配置を考えている。	居室には馴染みの家具類が持ち込まれ、これまでの生活がその人らしく継続できるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレや浴室には手摺りを設置し、車椅子でも過ごして頂けるようバリアフリーにしている。フロア毎に壁紙を変えるなど、工夫を行っている。		